

NEC IR Day 2022

# 開会のご挨拶 ～2025中期経営計画の進捗～

2022年9月7日

代表取締役 執行役員常務 兼 CFO（チーフフィナンシャルオフィサー）

藤川 修

# \Orchestrating a brighter world

NECは、安全・安心・公平・効率という社会価値を創造し、  
誰もが人間性を十分に発揮できる持続可能な社会の実現を目指します。

# 2025中期経営計画の進捗

## 2021年度の総括

- 変化の激しいマクロ環境要因の影響を受けつつも、中計1年目の業績目標を過達
- 1年目としての行うべき施策を実行し、中計の方向性に間違いがないことを確認

## 2022年度の状況

- 依然として不透明なマクロ環境は継続
- 一部の事業で市場の回復や市場の立ち上がりの遅れ（社会公共/グローバル5G）
- ▶ **情勢変化に対する対応力や旺盛なDX需要の取り込みなどにより、中計2年目の全社としての業績目標を維持**
- ▶ **中計目標到達に向けた施策は引き続き確実に実行**

# 2025中期経営計画の進捗

## ① 成長3事業 (IR Day 各セッションの中で詳細を説明)

	2021年度の成果	2022年度の取り組み
DG/DF	<ul style="list-style-type: none"><li>■ Avaloq PMI完遂、APAC市場開拓</li><li>■ SWS (UK) ボルトオンM&amp;A 実行</li><li>■ デジタルID/DX APAC大型受注の獲得</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>■ アップセル、クロスセル拡大</li><li>■ オフショア化の推進</li><li>■ SaaS/ソフト事業拡大</li><li>■ 低収益事業の早期終息</li></ul>
グローバル5G	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 海外商用案件の獲得</li><li>■ グローバル事業体制強化 (M&amp;A実行)</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 海外商用案件の実装</li><li>■ 顧客ベース (パイプライン) の拡大</li><li>■ Open RANポートフォリオ拡充</li></ul>
コアDX	<ul style="list-style-type: none"><li>■ ハイパースケーラー協業によるクラウド事業での競争優位性獲得 (Amazon Web Services, Microsoft, SCSK)</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>■ ABeam連携での案件獲得</li><li>■ DXオフリング開発強化とメニュー拡充</li><li>■ DX人材の育成・獲得</li></ul>

# 2025中期経営計画の進捗

## ② CFO領域

### 2021年度の成果

- 課題事業の非連結化による収益改善（ディスプレイ/エネルギー事業）
- 低収益事業のモニタリング体制強化

### 低収益事業

### 財務戦略

- R&I、JCR、S&Pによる格付けの向上
- 計画に即した戦略費用投入

### 2022年度の取り組み

- 低収益対象事業の利益率1%超改善
- ストラテジックな施策を必要とする事業の選定
- 資本効率管理体制の構築
- 在庫適正化によるキャッシュフロー改善
- 政策保有株、CCC日数の更なる圧縮
- 利益拡大の範囲内で継続的戦略費用投入

# NEC IR DAY 2022

DAY	TIME	PROGRAM	SPEAKER	
9/7 WED	13:00 - 13:15	冒頭の挨拶	執行役員常務	藤川 修
	13:20 - 14:00	コアDX	執行役員副社長	堺 和宏
	14:10 - 14:40	エンタープライズ	執行役員常務	松原 文明
	14:50 - 15:20	社会公共	執行役員常務	雨宮 邦和
	15:30 - 16:00	社会基盤	執行役員常務	山品 正勝
9/8 THU	13:00 - 13:50	ネットワークサービス (グローバル5G含む)	執行役員常務	河村 厚男
	14:00 - 14:50	グローバル ( デジタル・ガバメント/ デジタル・ファイナンス含む )	執行役員副社長 執行役員	熊谷 昭彦 吉田 直樹

アンケートへのご協力をよろしくお願いいたします

\ Orchestrating a brighter world

**NEC**

# 注意事項

## < 将来予想に関する注意 >

本資料に記載されているNECグループに関する業績、財政状態その他経営全般に関する予想、見通し、目標、計画等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいております。これらの判断および前提は、その性質上、主観的かつ不確実です。また、かかる将来に関する記述はそのとおりに実現するという保証はなく、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。その要因のうち、主なものは以下のとおりですが、これらに限られるものではありません。

- ・ 国内外の経済動向、為替変動、金利変動および市況変動
- ・ 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行による悪影響
- ・ 中期経営計画を達成できない可能性
- ・ 売上および収益の期間毎の変動
- ・ 企業買収・事業撤退等が期待した利益をもたらさない可能性
- ・ 戦略的パートナーとの提携関係の悪化、または戦略的パートナーの製品・サービスに関連する問題が生じる可能性
- ・ 海外事業の拡大が奏功しない可能性
- ・ 技術革新への対応または新技術の商品化ができない可能性
- ・ 競争の激化にさらされる可能性
- ・ 特定の主要顧客への依存
- ・ 新規事業の成否
- ・ 製品・サービスの欠陥による責任追及または不採算プロジェクトの発生
- ・ 供給の遅延等による調達資材等の不足または調達コストの増加
- ・ 事業に必要な知的財産権等の取得の成否およびその保護が不十分である可能性
- ・ 第三者からのライセンスが取得または継続できなくなる可能性
- ・ 顧客の財務上の問題に伴い負担する顧客の信用リスクの顕在化
- ・ 優秀な人材を確保できない可能性
- ・ 資金調達力が悪化する可能性
- ・ 内部統制、法的手続、法的規制、環境規制、情報管理等に関連して行政処分や司法処分を受ける可能性または多額の費用、損害等が発生する可能性
- ・ 実効税率もしくは繰延税金資産に変更が生じる可能性または不利益な税務調査を受ける可能性
- ・ コーポレート・ガバナンスおよび企業の社会的責任に適切に対応できない可能性
- ・ 自然災害、公衆衛生上の問題、武装勢力やテロリストによる攻撃等が発生する可能性
- ・ 退職給付債務にかかる負債および損失等が発生する可能性
- ・ のれんの減損損失が発生する可能性

将来予想に関する記述は、あくまでも本資料の日付における予想です。新たなリスクや不確定要因は随時生じ得るものであり、その発生や影響を予測することは不可能であります。また、新たな情報、将来の事象その他にかかわらず、当社がこれら将来予想に関する記述を見直すとは限りません。

（注） 年度表記について、20年度は2021年3月期、21年度は2022年3月期、22年度は2023年3月期、（以降も同様）を表しています。